



Vol.1 (2) 2020.12. 15.

(発行)NPO 大学院連合

メンタルヘルスセンター

540-0012 大阪市中央区谷町1丁目6-4

天満橋八千代ビル 10階 DE号

Tel.06-6755-4458 Fax. 06-6755-4459

## 巻頭言

### —一部女性たちが置かれている状況—

代表理事 三戸 秀樹

コロナ禍のなか、一部では生活が成り立たなくなりつつある局面をむかえています。なかでも、一番困窮しておられる世帯のひとつが母子家庭です。また、非正規独身中年女性たちは政府モデルにない対象者で、多様化の時代にもかかわらず、こぼれてしまう対象者かも知れません。

これに関連する産業構造は、産業別就業者推移からみると、第三次産業が第一次・第二次産業に比べて断トツの構成比になっていること。この第三次産業就業者における男女割合が、ここ10余年、女性へ傾斜し続けていること。なかでもパート労働者の構成割合を伸ばしていること。そして非正規労働者の70%が女性労働者で占められている点。現在の大阪府の最低賃金は時給964円です。この状況下での8時間労働で1ヶ月に得る収入は15.4万円、そして年収換算すると185万円になります。この母子家庭で、小・中・高と進めて子育てが出来るでしょうか…。国民総中流は過去の話で、現在はきびしい格差社会となりました。ワーキングプア層が急速拡大し、母子家庭の餓死事件は止まっています。非正規シングル女性は、2000年代初めに比べて約3倍になっています。非正規シングル女性(35～54歳)の調査では、6割以上が、「正規社員として働ける会社がない」と言います。さらに18歳未満の子どもにおいて、7人に1人は貧困状態です。これは先進諸国のなかでは最悪水準です。この子ども貧困への直接的対策として、子ども食堂の活動が2010年代から活性化し始め、現在では全国3700カ所を越えています。

また、政府が描いている非正規労働女性は、①働きながら子育てをする、②夫と子ども、そしてパート就労であって、非正規独身中年女性はモデルにありません。このため公的対応の網からこぼれ落ち、非正規独身中年女性の貧困が顕在化しはじめています。具体的には、公営住宅の狭き門、自治体は母子・多子世帯・高齢者・生活保護受給者を優先します。社会保障制度は、女性は結婚することを前提としています。離職・失業時の困窮時の家賃補助制度は、非正規独身女性への手当はありません。この状況から8050問題が起きました。

したがって、コロナ禍においてひどい直撃を受けるところは、この非正規独身中年女性とその周辺だと思います。現状では、まだ報道機関もここにはほとんど焦点をあてていないようです。加えて、男性の生涯未婚率は女性の10%ほど大きい数値で年次推移しています。言葉を変えると、女性が結婚したいと思ってもそのパートナーがいらないという状況が見え始めました。

(注) 産業保健シリーズ講座2020の6回シリーズにおいて、第5回「非正規労働：パート・アルバイト労働」で本稿の一部を伝えています。

## 労働心理学のあれこれ(2)

### —疲労の研究—

倉敷労働科学研究所の1921年の発足当時の大きな研究課題は、疲労の研究でした。かたや、

戦時下 1917 年設立の英国の産業疲労調査局 (Industrial Fatigue Research Board)においても、主テーマは同様に疲労でした。さらに英国は、1920 年に国立産業心理研究所 (National Institute of Industrial Psychology) が Myers, C.G. の指導のもとに創設されている。この状況は、その当時の労働現場状況を表しているものと考えられる。倉敷労働科学研究所発足当時のメンバーは、暉峻義等、石川知福、桐原葆見 (1892-1968) で、のちに高田隣徳と八木高次が加わった。この中の当初の心理学系研究者は桐原葆見のみであった。さらに 1937 年、東京移転して発足した労働科学研究所においても、桐原は続いて産業心理学分野の学術的開拓をした。彼が著した「疲労と精神衛生」の本は、産業疲労に関する優れた著書でも。

女性の心理学研究者・原口鶴子は、倉敷労働科学研究所が発足する 9 年前 1912 年に米国コロンビア大学のソーンダイク先生のもとで、疲労研究をテーマに博士号を取得した。ちなみに彼女は、平塚らいてうや大橋廣と日本女子大学の同期生で、松本亦太郎に心理学をまなび、卒業後、渡米して心理学を修めた。日本人女性として最初に博士号を取得した人に該当し、現在のウィキペディア情報は、もっと後年の女性を最初の博士号取得女性としている。この頃、すでに疲労研究がなされ始めていたが、あれから 108 年経っているにも関わらず、現状、過労死・過労自殺が解決出来ていないことは、心理学徒として深く恥じるばかりである。過労死という言葉が、田尻俊一郎、細川汀、上畑鉄之丞らによって 1982 年の出版「過労死：脳・心臓系疾患の業務上認定と予防」(労働経済社) に初めて記されて以来、約 40 年ほど経過するが、2014 年 6 月に過労死等防止対策推進法、2015 年 12 月労働安全衛生法の改正によるストレスチェックの義務化などができたが、いまだに根絶できていない。

大阪の地では、東京に遅れること 11 年後 1948 年に大阪府立労働科学研究所が発足した。のちにこの研究所は大阪府立衛生研究所と合併をし、1960 年 7 月に大阪府立公衆衛生研究所となった。なかでも労働衛生部は前身の流れからも大きな研究部署であった。しかし 2017 年、府立公衆衛生研究所は、閉鎖をした。

日本産業衛生学会の産業疲労研究部会を中心に、産業疲労研究が進められてきた。一時期フリッカー計による計測、タキストスコープ、二点弁別閾、近点距離計や、色名呼称法、連続反応時間測定、クレペリン加算テスト等が盛んに行われたりしたが、それはその当時の労働負担の特徴を反映していた測定技法も言える。また、自覚症状に関係したスケールもつくられてきた。「疲労自覚症状しらべ」「疲労部位しらべ」「蓄積疲労徴候調査」などで、さらに発展型へとすすんでいる。なかには副次行動を指標化してとらえることも行われた。

現在、疲労研究をしている学会や研究会は、ここに紹介した日本産業衛生学会系の産業疲労研究会がある。また日本体力医学会における疲労研究もある。ここでは、疲労そのものは悪者の扱いを受けない。なぜなら、筋疲労を経験してはじめて筋力アップへとつながるのであって、疲労すべてが悪者である扱いをしない。近年 2005 年に誕生した新しい学会に日本疲労学会がある。筆者は一時期理事を務めていたが、現在は退会している。発足経緯は、慢性疲労症候群という病気研究から生まれた学会で、現在では、病気に限局したものではなく、疲労を広くとらえた研究となっている。もっとも、疲労してもドリンク剤 1 本、薬剤を服用すると回復、いや一部回復…ような研究的傾向もある。この点は、産業疲労研究会の志向とは異なるものである。(続く) (文責：三戸秀樹)

## 新書版の出版の経緯と吉野源三郎

### 本と知識を求めて

三戸 秀樹

近年は多くの出版社から、新書版が発行されている。岩波新書、中公新書、飛鳥新書、河出新書、角川新書、三笠新書、講談社新書、文春新書、新潮新書、PHP新書、ワニの本、朝日

新書、NHK出版新書、岩波ジュニア新書、冬幻社新書、講談社+α新書、光文社新書、集英社新書、小学館新書、新潮社新書、ポプラ新書、有斐閣新書、……など枚挙にいとまないほどである。最初に新書版を出した岩波書店のものには、その出版への動機が、すべての新書版の1頁に常に同じ文章が記されている。

祖父(1884-1975)から、東京本郷に住んで一高や東大へ通っていた頃の話しを、時折聞かされた。寮生活での「神田の古本屋」、「まかない征伐」、「洋食・カレーライス」「北里研究所の研修」……。その時の刷り込みで、古本屋さんは神田とばかり思っていた。自身の若い頃の東京での学会出張のうちに、JR 神田駅で下車して古本屋を探してみた。しかし、どこにも見当たらず、道行く人に尋ねると、相当移動しないと古本屋街には行き当たらないことが分かった。結局、最寄り駅は神保町駅であったのだ。それ以降、何度か古本屋の町を訪れたが、次第に古本屋の町の雰囲気が変わっていった。客の多い店は、従来型の古本屋ではなく、店にビニ本をおいている店が変わっていった。かつての有名な美術書の古書店が、ビニ本屋さんに変貌していたのである。

昭和初期の小説には、「喫茶M」と称する記載がしばしば出て来た。それは本屋の丸善書店の中にある喫茶店の名前であった。むろん気になって、東京出張した折に、丸善本店へ寄り、喫茶Mでコーヒーを飲んでみたこともあった。現在は無くなったと聞いている…。本屋の喫茶店といえば、大阪キタの旭屋書店ビルの中ほどフロアの喫茶店の思い出がある。関西学院大学の大学院生の時、大学の校則をはしからはしまで細かく読むと、関西の数校の大学における大学院講義を受けることが出来る規則が書いてあった。早速、関西大学の社会学部の大学院開講科目に興味をもって、吹田の社会学をたずね、事務室でその旨の希望を申して出た。結局、紹介されたのは当時の社会学部・学部長の池田進先生であった。学部長室で受講希望を述べると、池田先生は「心理学研究における老舗である関学の院生が、わざわざ関大へ来て聞くことが出来る開講科目は無いです」と言われてしまった。そしてその翌日に、偶然にも旭屋書店で再度、池田進先生に出会ってしまったのである。先生は、書店内の喫茶店へ誘って下さり、コーヒーをご馳走して頂いたのである。余談は、その時に池田先生が、京都の中学生時代、英語を教わった先生は石原岩太郎先生(注：当時、関学におられた言語心理学の先生)だったと述懐されました。後日、石原岩太郎先生へ報告するとビックリされ、「私は、心理学の研究者になる前、京都で学校の英語教師をしていました」と言われました。後日、日本心理学会あたりで池田先生へ直接お話をされたのではないかと思う…。

### 吉野源三郎

数年前、吉野源三郎(1899-1981)が書いた作品「君たちはどう生きるか」(新潮社、1937年7月発行)が見直され、マンガ本になって出版された。当時は、1937年7月に盧溝橋事件が起こり、日中戦争が始まった頃でもある。言論弾圧や思想統制がはげしくなっていった時期である。

満州事変があった1931年、吉野は兵役中・予備将校時代に、治安維持法の違反で検挙、1年半投獄されていた。吉野は、東大で哲学を学んだ人だ。しかし投獄された影響で、投獄後の就職はままならなかった。しかし、30代のおわりに岩波書店へ就職することが出来た。当時の岩波書店社主・岩波茂雄(1881-1946)は、日中戦争に対して反対の立場を一貫して維持し、軍部への献金を拒否した人である。戦後、吉野は雑誌「世界」の最初の編集長もつとめた。

この吉野が、岩波書店から岩波新書出版の仕掛けを作り、日本で新書版を世に始めて問うた仕掛け人である。彼は、英国のペリカン・ブックスを見て読んで、同様なシリーズ本を出したいと考えた。詳しくは、「岩波新書の50年」を読んでみるとよいかも知れない。ペリカン・ブックスについては、三戸の学生時代、大きい本屋の洋書コーナーに各種置かれていたし、装丁が安上がりで、値段も一般的洋書と異なって安価であった。ペリカン・ブックスを先輩研究者や仲間たちで集まって、輪読して読んだ覚えがある。また、自身で読んだ本もある。現在、自身の書架には、Penguin science of behavior というシリーズ版の Macworth, J.F. 著

"Vigilance and habituation"や、Annett,J.著 "Feedback and human behavior"が残っている。中でも一番影響をうけた1冊は、日本の産業心理学の本にまだ書かれていないことが書いてあり、population stereotype を知った最初の著書だった。しかしこの影響を受けたペリカン・ブックは書架に見つからず、行方不明である。

新書出版のアイディアについて、吉野は哲学者・三木清(1945年獄死)にも相談をし、タイトルや著者の選択などについても相談したようであった。そして1937年7月に盧溝橋事件が起きたが、その翌年の1938年11月に最初の岩波新書20冊が上梓された。クスリスティー著「奉天三十年」の上・下巻を、反戦思想の持ち主である、東大の教職を1937年12月に追われた矢内原忠雄が翻訳をした。その内容は、旧満州において人々から信望をあつめたスコットランド出身の伝導医師による自伝的回想であった。矢内原はキリスト者でもあった。中国へ向けたわが国政策に対する抗議でもあったのだ。

### Pen is mightier than the sword

Pen is mightier than the sword (ペンは剣よりも強し)と言われるが、明治維新以降の度重なる海外へ向けた戦争、それらは日清戦争(1894-1895)、日露戦争(1904-1905)、第一次世界大戦(1914-1918)、日中戦争(1937-1945)、仏印進駐(1940)、太平洋戦争(1941-1945)などは、戦争に突入することを止めきれなかった歴史であるとも言える。しかしそれぞれの時代において、本当にペンへの力をどれほど残していたのかとの疑問も残る。太平洋戦争時代の言論弾圧は、相当に厳しいものであった。それは発言者をことごとく殺して言った史実に残されている。与謝野晶子が弟・宗七を旅順の戦地におくこととなり、「君死にたもうことなかれ」と歌ったのは日露戦争の頃の「明星」誌1904年9月に載せた歌であった。それでも大町桂月は、「皇室中心主義の眼をもって、晶子の歌を検すれば、乱臣なり賊子なり、国家の刑罰を加ふべき罪人なりと絶叫せざるを得ざるものなり」と批判している。しかし、太平洋戦争の頃には、晶子の歌はもはや許さなかった表現であった。

そして吉野は、戦後の民主主義運動、平和運動の理論的指導者となり、次世代の丸山眞男ほかを育てた。この背景において新書が果たした影響は、実に大きなものがあった。そして、反戦、人の生き方について問い続けた。「君たちはどう生きるか」の最初の出版は、新潮社の「日本少国民文庫」(全16巻)の最後の配本の時で、1937年年7月に出ている、さらに、岩波文庫版「君はどう生きるのか」には、最後に丸山眞男の追悼文が載せられている。

### ニュース

●津波警報を示す聴覚障害者へ向けた新デザイン旗が、2020年2月に出来た。旗のデザインは、船舶免許を持たれている人は御存知だと思いますが、赤と白の格子模様である国際信号旗「U旗」とおなじです。気象庁は津波警報や津波注意報が出た時に、海水浴場などで掲示して知らせることを推奨しています。ちなみに東日本大震災では、聴覚障害者の死亡率は、障害のない人の2倍であったとする報告がある。

●宝塚市は、2019年4月1日から、“障碍”や“障がい”表記を“障害”と表記することにしました。市のホームページには以下のように記しています。

「碍(がい)」には「さまたげ」や「バリア」の意味がありますが、このバリアは、個人ではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な観念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。この「障碍(がい)」の本来の意味について知識を普及させ、障碍(がい)の有無にかかわらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」を推進し、暮らしやすい社会の実現を図ります。

●参議院議員に舩後靖彦さんと木村英子さんがなられて、制度改正の動きがあらわれています。重度訪問介護サービスは、重度障害のある方への普段生活をするために、食事や排せつや移動

などの支援をしてきました。このため、個人の経済活動である通勤時や職場での支援は対象外となっていました。厚労省は、職場で過ごす時間や通勤時の介護も公的支援の対象とする制度改正を行う予定です。

障害者差別解消法における“合理的配慮”から、職場の事業主がおこなうべきであるとする解釈では、資金的余裕のある職場でしか重度障害者を受入れられない懸念が生じます。この場合は、車椅子の方へのスロープ準備のようなものではなく、継続的に介護が必要な重度障害の方へ介護費用を、その職場が継続的に負担しないといけないとなると、広域の障害者就労の拡大が望めなくなります。このような点をふまえて、制度的改革が行われようとしています。さらに、医療や技術発達によって重度障害でかつ働ける人が増えて来ています。近年の一例は、分身ロボットによる、自宅に居ながらの就労の例があります。“介護”と“労働”が併存する時代へ向かっています。産業カウンセリングにおいて、一層、障害労働者が、それも重度の方がクライアントとして現れる可能性が高まっています。

### 事務局だより

●大学の産業系実習が、コロナ禍の影響を大きく受けました。大学の前期課程が、講義を含めて対面講義が実施出来なかった大学が多くありました。このために、現場実習そのものに躊躇される大学も多く、なかなか一歩が踏み出せない状況にありました。しかし後期課程の秋から、文科省の実施基準を緩和する動きとあわせ、少しずつ実習へ向けた動きが出ています。もっとも、相談業務の最前線では、事業所や相談員の意向から、陪席的なものは不可能な状況にあります。様々な工夫を凝らしながら、文科省指針を組み入れながら対応を致しております。しかし新型コロナ再燃から、予断を許さない状況です。無事に年度末までに終わることを祈りたいと思います。

●ホームページのリニューアルが出来上がりました。5月にSiren社の代表取締役・南氏と取締役・清藤氏にセンターへお越しいただいて、以来、作成へ向けた協議と交渉をスタートさせました。秋からは頻度を上げた打合せ会議を重ねました。完成版は、多くの方々から見ていただきやすいことを念頭におき、携帯スマホからも見やすくなる工夫をしていただきました。また、ホームページの維持管理のための費用を押さえる工夫も凝らしてあります。早速、産業保健シリーズ講座2020や会報等の掲載を致しました。今後は、掲載内容の一層の充実へ向けて動く必要があります。

●ストレスチェック作業を遂行しながら、事業所の人的環境への真の改善策へつなげるためには、かなりの作業量があることが分かりました。このためには、ストレスチェックにおけるキモである集団分析を軽視しないで真面目に遂行してゆく必要があります。このために、現状のMHC態勢では十分ではないことが分かりました。常勤職の経費的ゆとりには不安がありますので、当面の打開策として、業務委託契約による加勢をお願いしました。なお、当該助っ人は、臨床心理士・公認心理師の資格を持っています。もっとも、当該資格等を保有しているから、期待する実務に関してすぐに有効であるとは理解しておりませせん。

●「産業保健シリーズ講座2020」は、第1回会場を社会福祉法人が運営している路地カフェの休日（土曜日）にお借りすることに致しました。路地カフェはジョブコーチを導入して、障がいの方が喫茶店の仕事ができるように人材養成する機関です。しかし、新型コロナ状況がはかばかしくないので、三密対策として、さらに広い会場のドーンセンターへ変更を致しました。

●「新型コロナ時代のメンタルヘルスストレスとの付き合い方」の初タイトルで、11月下旬、代表理事が中央労働災害防止協会・大阪労働安全衛生教育センター（於：河内長野市）の「メンタルヘルス教育研修トレーナーコース」で講義を致しました。このコースは、事業所におけるメンタルヘルス担当者を育成するために作られた教育コースです。全日程は3泊4日の

泊まり込みで、受講料¥ 93,500 円のもので。内容は、メンタルヘルスについて、ストレスチェックをはじめとする基礎から実践、そして応用までを体系的に学びます。数年前になりますが、前・事務局長に受講をしていただき、働く人たちのためのメンタルヘルスについて体系的に学んでいただきました。

#### 編集後記

会報第 2 号をお届けいたします。9 月の第 1 号発行から 3 ヶ月が経過致しました。新型コロナも多少一段落気味かとおもいましたが、大阪府は 11 月 10 日に 200 人を越す患者発生となり、時に 400 人を越す日が含まれ、以来 200 人を下ることがなくなっていました。MHC 所在地の大阪府中央区は、夜の飲食関係について営業時間制限が出されています。目下、センター業務も状況を見据えながらの慎重な三密対応に心がけております。

会報は、非会員の方々も目を通すことができます。お目通しいただいて、MHC の趣旨に御賛同いただける方々は、入会をして下されば幸いに存じます。(編集子)